

(再開 午後1時00分)

**議長（勝山 正）**

休憩前に引き続き会議を開きます。

3番 湯本行浩 議員。

(「はい、議長。3番。」の声あり)

(3番 湯本行浩 議員 登壇)

## 1. 地域活性化の考え方について

**3番 湯本行浩 議員**

では、議長から発言を許されましたので、通告に基づきまして、2項目の質問に入らせていただきます。

まず1項目目として、地域活性化の考え方について4点ほど村長にお伺いいたします。

1点目、現在、カヤの平高原ロッジが施設の不具合で営業していないとのこと。多くの人たちが訪れることが見込まれたと思うが、なぜ現状の状態なのか。理由と今後どうするかの説明をお伺いします。

2点目、ケヤキの森公園について。カヤの平高原は3年間の指定管理契約ですが、なぜケヤキの森公園は1年の契約なのでしょう。それと、馬曲川食堂は指定管理相当、マレットゴルフ場は業務委託管理相当の契約であります。ほかの施設は3年契約が一般ですが、1年で結果が出せるのでしょうか。また、マレットゴルフ場を指定管理契約にし、売上げをサービス向上、そして付加価値に充てる考えはないのでしょうか。

3点目、「令和5年度第12回コミュニティ・スクール研修会 in 木島平」が7月29日に若者センターで開かれました。幅広い年代から意見が聞け、大変有意義と考えますが、このイベントの総括、評価、次回の改善というのをお伺いしたいと思います。

4点目、パンフレットの「暮らし、来らし、暮らし、きじま平村移住ガイド」は、木島平のことが大変よく分かると思いますが、お年寄り、ネット環境のない家などに配付する考えはないのでしょうか。

4点をお願いします。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

**村長（日墓正博）**

地域活性化についての考え方というご質問ですが、個々のご質問について、それぞれ担当課長に答弁をさせます。

**議長（勝山 正）**

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

**産業課長（湯本寿男）**

それでは、私の方から1点目のカヤの平、それと4点目のパンフレットのご質問にお答えをいたします。

カヤの平のロッジの営業に関してのご質問でございます。

今現在、オープンはだいぶ遅くなりまして、7月下旬から予約のみの営業をしております。従前と

同様、ロッジについては貸付けを行いながら運営をお願いしております。

営業が遅れた件につきましては、キャンプ場などの指定管理と併せてお願いしたことから、指定時期が5月に入ってしまった、引き継ぎが遅れたこと、また、働く人材の確保が遅れたこと、施設において水回りなどの修繕により、営業開始が遅れたという状況です。

また、今後はというお話ですが、村の方針と貸付者の運営方針とすり合わせを行いながら、総合案内所、キャンプ場も含めて、カヤの平の持つ自然の魅力を伝えていく施設にしていくことと考えております。

つづいて、4点目のパンフレットのお話でございます。

ご質問の移住ガイドについては、村のホームページや、移住セミナーなどで移住希望者が木島平村を移住先として検討する際の、木島平村は一体どういうところなのか、分かりやすい資料として作成しています。村の子育て支援策を始めとしたいろいろな情報を載せることにより、移住後の村での暮らしをイメージできるようにと、作成したものです。

そのため、移住希望者目線で作られておりますので、村民向けには不足している情報もございますので、村内での配付は予定をしておりますけれども、もしご希望であれば、窓口などでも配布しておりますので、ご覧いただければと思います。

## 議長（勝山 正）

小松建設課長。

（建設課長「小松宏和」登壇）

## 建設課長（小松宏和）

私の方から、2点目のケヤキの森公園マレットゴルフコースの管理委託の関係についてお答えいたします。

ケヤキの森公園の設置趣旨は、村民の憩いとふれあいの場として、村民の生活文化の向上及び福祉の増進を図ることを目的としています。

マレットゴルフ場と芝生広場に関して申し上げますと、利用料としているのは、マレットコースの利用料のみで、料金は1人1回200円と設定していますが、村民利用は免除としています。年間でのコース利用の料金収入は、令和3年度、4年度共に65万円程度であり、維持管理費の実績にあつては、令和4年度のマレットゴルフ場、芝生広場関連施設の維持管理委託料で1,065万9,000円であります。委託業務の主な内容は、草の除草や芝刈り等の管理ということであり、効率化できる部分はおのずと限界があります。

このようなことから、村民利用が主体であり、営利を目的とした施設ではなく、また、維持管理業務も特殊技術を要する作業ということではないため、指定管理制度での委託は現在考えておりません。

また、委託期間につきましては、委託業者による安定した維持管理や、計画的な人材確保の観点からもメリットが考えられますので、次年度に向け、複数年契約を検討しております。

## 議長（勝山 正）

高木生涯学習課長。

（生涯学習課長「高木良男」登壇）

## 生涯学習課長（高木良男）

それでは、ご質問の「コミュニティ・スクール研修会」先般7月に行われましたが、その件について研修会の総括、それと評価、次回に向けての改善ということでご質問を頂戴しております。お答え申し上げます。

本研修会は、令和元年度以来、参加者が一堂に会しての開催となりました。

この研修会は、学校・家庭・地域が対等な関係の下、地域住民や保護者の持続的な学校運営への参画や協働活動が行われることにより、子供たちの豊かな成長を支える「地域と共にある学校づくり」を推進するために開催をしているものであります。

参加者は、小学生・中学生・高校生を始め、教職員、村職員、PTAなど約70名ご参加をいただきました。前半は、地域コーディネーター、下高井農林高校、木島平中学校からそれぞれ実践発表をいただき、後半は、各グループに分かれて熟議を行い、そのまとめをグループごとに発表をしていただきました。

参加者からのアンケート結果を見ますと、研修会について「とても意義がある」または「意義がある」との回答が全体の90%以上でありました。

また、実践発表では「地域との繋がりを知る良い機会になった」「発表自体も分かりやすかった」、また「地域コーディネーターの活動が保・小・中・高との連携を高めている」といった好意的な意見が多数寄せられておりました。

熟議（グループ討議）では、世代による交流ができたこと、様々な意見交換ができたことがよかったといったご意見を多数頂戴しております。

また、その反面で、熟議については、小学生には少し難しく、時間も長かったのではないかとといったご意見もありました。

今年度で第22回を迎える研修会であると同時に、学校運営協議会の立ち上げからも12年を経過しております。

研修会では、協議会の立ち上げから関わっていただいている外部講師を継続してお招きし、パネルディスカッションや総評といった形で意見やアドバイスを頂戴してまいりましたが、子供たちを取り巻く昨今の環境や学校が直面する課題が年々複雑化、多様化する中で、学校と地域を取り巻く地域課題も重層的な様相を呈していることから、改善の必要性を感じております。

具体的には、参加意欲を高めるために、研修会の目標設定の更なる明確化と学校運営協議会のニーズや目標に合わせたテーマ設定、内容として、グループワークや課題解決演習などのアクティビティ等の取り込み、参加者同士のチームビルディングを促進し、研修会終了後も定期的なフォローアップ活動を計画し、継続的な学びと関与を支援する取組ができるよう改善していきたいと考えております。

今後も学校運営協議会を中心に、コミュニティ・スクール研修会を通じ、社会総がかりで子供たちを育てていこうとする取組を進めてまいります。

## 議長（勝山 正）

湯本行浩 議員。

## 再質問

### 3番 湯本行浩 議員

再質問をさせていただきます。

1点目の答弁ですが、5月8日からの契約で。ただ僕がカヤの平に行ったのが8月16日の時点です。そのときに営業していないというのはちょっと長すぎるのではないかと。そして、これから民間のアイディア、行動力、情報発信力によって、木島平の観光業を発展させなければいけないときに、7月、8月、この繁忙期に営業しなかったことは非常に残念と思います。

そして、この3つほど、またちょっと質問させていただきたいんですが、カヤの平の管理は、プロポーザル方式での契約なのですか。

2つ目、これは重要だと思いますが、契約者が契約をしたときには、企画、提案というものはなかったのですか。

3番、現在は営業しているのか。

この3つです。

つぎに、2点目の答弁で、ケヤキの森公園は村民利用が主体であり、営利を目的としたものではないは分かりますが、民間の企業に任せるのであれば、今いる人たちのモチベーションを上げ、そして今以上のサービス向上、施設を今以上に良くし、村内外からお客さんを迎える、雇用も増やせるというような考えもあるのではないのでしょうか。

3点目の答弁です。研修会には私も参加させていただきました。各年代のグループ討議で、小学生、高校生、学校の先生など、様々な意見が聞け、みんな木島平のことを思っているんだなと思いつつ、大変意義のある研修会と感じています。

そこで、結果なり、総括なり、改善する点などを公開することによって、もっと研修会が身近に感じられて、硬い言葉ですが、村民としての自覚が強くなるのではないかと思います。

まわりくどくなってしまうかもしれませんが、要は、子供たちの考えをしっかりと受け止めているんだということ公開することで、自覚が強くなるのではないのかなと思いつつ、公開をしていただけないでしょうかと、お伺いします。

4点目です。「パンフレットを村内での配布は予定しておりません」とのことですが、先日、区の魚のつかみ取り大会がありまして、120人ほど集まりました。区民はもちろんのこと、おじいちゃん、おばあちゃんのところ遊びに来た孫の大学生が友達を連れてきたり、村を離れている息子さんたちが家族を連れてきたりしていました。

考えたんですけれども、これ民間でいうとても大きなビジネスチャンスだったなと思いつつ。このときに、おじいちゃん、おばあちゃんがこの分かりやすいパンフレット、わかりやすい資料を持っていたら、息子、孫、孫の友達、彼らのその後ろにいる友人知人、大勢の人に、木島平の移住の良さを伝えられたのではないのかなと感じます。

よって、村民に配布していただきたいと思いつつ、ご検討願えないでしょうか。

以上、4点お伺いします。

## 議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

## 産業課長（湯本寿男）

まず、私の方から、カヤの平の再質問についてお答えをいたします。

カヤの平高原保健休養施設につきましては、カヤの平高原キャンプ場、運動場、総合案内所、炊事施設につきましては、指定管理者の募集を行いまして、それぞれ事業者の方2名応募をいただきましたが、事業計画、収支計画を出していただいて、選考委員会で選定をさせていただいております。

お話をさせていただいたように、建物内の修繕ですとか、だいぶ古くなっている状況もありましたので、そちらにかかる修繕等を、少し時間をいただいて修繕した結果、営業が遅れていたということで、村民の皆様については、ご利用いただけなかったという状況でご迷惑をおかけした部分につきましては、お詫び申し上げます。

それで、企画、提案があったのかということでもありますけれども、事業の計画ですとか、収支計画を求めていますので、そういった提案をもとに選定をさせていただいたという状況です。

現在、営業しているかというところでもありますけれども、現在、ロッジについては、予約時のみ営業をしております。また、案内所につきましては、常時、今開いているという状況になりまして、徐々に通常管理にさせていただいているという状況であります。

それと、4点目のパンフレットのお話でございます。

ご指摘のとおり、各家庭によってUターンを希望される方については、良い情報だという声もいただきましたので、パンフレットを配るかどうかはちょっとまた検討させていただきますけれども、村内にも、そういった情報を広く伝えるというところで検討していきたいと思っております。

## 議長（勝山 正）

小松建設課長。

（建設課長「小松宏和」登壇）

## 建設課長（小松宏和）

それでは、ケヤキの森公園関係の再質問にお答えいたします。

現在のケヤキの森公園の管理につきましては、村が管理を行っておりまして、業務内容は草刈りであるとか芝管理、業務の内容を仕様書にまとめて、この業務を行っていただきたいということで委託をしております。

料金収入につきましては、村が受けるということでありまして、この中で先ほども申し上げましたが、料金の収入をあげようと思いますと、それぞれ制約を受けてしまうということも考えられますので、村民利用を主体とした仕様に基づく業務を行っていただくということで考えておりますので、よろしくをお願いします。

## 議長（勝山 正）

高木生涯学習課長。

（生涯学習課長「高木良男」登壇）

## 生涯学習課長（高木良男）

議員の方からは、子供たちの意見が地域の皆さんに広く周知できることが必要だというご提案を頂戴いたしましたと考えております。

今月末に、学校運営協議会が再度開催されますので、その場でしっかりと公表させていただき、その結果に基づいて、広く村民の皆さんに公表してまいりたいと考えております。

教育委員会でも今年、子供たちから意見を聞く機会を設けたいと教育長が考えております。

やはり、子供たちの意見を地域がどう吸い上げていくかということが大事でありますし、例えば給付金等々、コロナ禍でさまざまな給付金が国・県の方から下りてまいりまして、村としてもそういった対応したところがございますけれども、お金、貨幣的なインセンティブのみで、例えば出産が奨励されるような地域が果たして良いのかどうか。非常に我々は考えなければいけない時期にきているのだらうと思っております。そのような意味で、子供たちの意見をしっかりと地域に伝えていく役割を学校運営協議会の方で果たしていきたい。このように考えておりますので、よろしくをお願いします。

## 議長（勝山 正）

湯本行浩 議員。

## 再々質問

### 3番 湯本行浩 議員

再々質問させていただきます。

まず、1点。カヤの平のことですが、契約者が契約したときにその企画、そういうものが出ているのであれば、すぐに対応しなければいけないのではないかと思います。

それを踏まえてですね、民間と共栄することで、やはり村が盛り上がっていくとか、民間の資金力、アイデア、行動力、そして情報発信力で木島平を発展させること、そして、子供たち、おじいちゃん、おばあちゃん、村民全員が共有することが大事だと考えます。

その2つのことを考えながら木島平を盛り上げていっていただきたいと思いますが、やはり、このように遅れてしまったとか、発信ができてないということをもう少し考えていただいて、もっと村民

全員が共有できるような体制を作っていただけませんか。  
これが再々質問です。

**議長（勝山 正）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

それでは再質問にお答えをいたします。

議員おっしゃるとおりだと思います。我々も、カヤの平高原につきましては、やはり内外に発信できるとても素晴らしい自然環境だと思っております。それを守っていくのも我々ですし、一緒に作り上げていくということで、外の人にも多く訪れていただきたいと思いますので、指定管理なり貸付けを受けた事業者と共に、民間の力をお借りしながら情報共有して素晴らしい施設になるように発信をしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

**議長（勝山 正）**

湯本行浩 議員。

## **2. ウィズコロナからアフターコロナへの移行について**

**3番 湯本行浩 議員**

2項目目の質問です。

ウィズコロナからアフターコロナへの移行について。

コロナウイルス感染症の位置付けが5月から「第5類感染症」に変わり、観光業を中心に世の中が慌ただしくなっています。

木島平村の観光業だけでも、地域資源を生かした通年観光、広域連携による観光振興、外国人旅行者の受入れ体制の強化と人材の育成などの課題が多いと思いますが、私が見ている限り動きが見えないと。観光施設の民営化などで状況も変わり、コロナウイルスにも臨機応変に対応しなければいけないということは分かりますが、これからの村の基本的な方針、考え方を伺います。

**議長（勝山 正）**

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

**村長（日碁正博）**

ウィズコロナからアフターコロナへということではありますが、観光施設の民営化も進めてまいりました。村として、観光行政をどのようにしていくのかということ、もう一度組み立てていく必要があるとも考えております。

誰に、どんな価値を、どのように提供していくのか、そして、将来どんなふうになりたいのかといったビジョンも形にしていく必要があると考えております。

村の歴史なども今後は有効な資源として取扱うことも必要ですし、特にカヤの平高原のブナの原生林のような自然資源を中心に、山林、地形を生かした事業の創出など、地域の自然を体験することを更に形にしていくことが必要だと考えております。

観光振興局を中心に進めているE-BIKEの取組は、広域的な観光政策として市町村連携によるルート開発、JRと連携したサイクルツーリングの推進、市町村枠を越えた広域連携もこれからはますます重要になります。いずれにしましても、これまでのスキー場、ホテルなどの施設型の観光が中心でありま



した、それを今、転換期と捉えております。観光振興局のコンセプトの「人づくり×里山」のようなところを、行政としても合わせて進めていくことを考えていきたいと思っております。

## 議長（勝山 正）

湯本行浩 議員。

### 再質問

#### 3番 湯本行浩 議員

再質問させていただきます。

僕の質問ですけれども、5月から「第5類感染症」に変わり、ウィズコロナからアフターコロナに向かっていく今現在、現在というかも5月で変わったのに、それまでに準備をされていなかったのかなと、今、思っております。

地域資源を生かした通年観光とか、広域連携の観光振興、外国人旅行者の受入れ体制の強化と人材の育成、これは「第2期木島平村まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和5年4月改訂版）」から抜粋したのですが、令和6年度が最終で、あと1年ちょっとしかないのに、準備もできていないと、自分は考えているのですけれども、今日、湯本直木 議員からも質問がありましたが、インバウンドを積極的に誘致していくのであれば、もう今現在、外国人旅行者の受入れ体制の強化と人材の育成を行っていかなければいけないのではないか、もう準備ができている段階になってなければいけないのではないかなと思います。

これから、地域資源を生かした通年プロモーション、広域観光、外国人旅行者の受入れということで、その基本方針、今お伺いしましたけれども、その答えとして「観光行政をもう一度組み立てていく必要があります」と言うのですけれども、これが期限はいつまでなのかということをお聞きしたいと思います。

そして、2つ目ですけれども、ウィズコロナからアフターコロナへ移行のときに、協定を結んでいるコンサルタントがいると思いますが、その会社からのアドバイス、提案のようなものはあったのでしょうか。

この2点をお伺いします。

## 議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

### 産業課長（湯本寿男）

それでは再質問にお答えをいたします。

インバウンドの関係で、受入れ体制の強化、人材の育成が進んでいないのではないかとということでございます。

おっしゃるとおり、受入れ体制、それに対応する人材については、なかなか難しい面もあって進んでいないというのが実情でございます。

元々木島平村は、インバウンドについては、湯本直木 議員の村長の答弁にもありましたように、ホテルパノラマランドで中国の観光客については受入れをしてきたという経緯がございますけれども、村として、インバウンドで大きく体制を整えてといった部分ではございませんでしたので、今後、大きな課題だと思っております。

ただ、外国人旅行者の方々については、広域的に活動をされるという傾向がございますので、やはり、先ほど申し上げたように、野沢温泉ですとか、近隣の方々が木島平に少し寄っていただくとか、木島平に泊まってほかへ行っていただくというような仕組みも、当然、考えていく必要があるだろう

と思っておりますので、この辺についても、次のご質問のコンサルタントとおっしゃったのですが、「地域活性化起業人」の観光振興局の取組の中でも、そういった考え方、進め方という提案ございますので、それは最終的には村の方でも、観光振興局と連携して必要な経費、体制を整備していくものだと思っております。ただ、すぐにできないという大きな課題の部分もありますので、徐々に進めていくものもあると思っておりますので、それは少しずつ形にしていきたいと思っております。

**議長（勝山 正）**

湯本行浩 議員。

### **再々質問**

**3番 湯本行浩 議員**

再々質問いたしますけれども、徐々にと言われましたけれども、これは大体どのぐらいの期間をみればいいのかをお聞きしたいと思います。

**議長（勝山 正）**

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

**産業課長（湯本寿男）**

徐々にとはいつまでというお話でございます。

まず、村長先ほど申し上げたとおり、少し組み立てを変えていく必要があるだろうという部分で、やはり、ある程度村としての方向性、ビジョンというのをちょっと早急に作らせていただいて、木島平の観光といいますか、交流とか関係も含めた幅広い意味で、少し方向性を示していきたいと思っておりますけれども、具体的にいつまでということでもありますけれども、ある程度、今年度中ぐらいに、大まかな方向性みたいなものを作りたいと考えています。

**議長（勝山 正）**

以上で、湯本行浩 議員の質問は終わりにします。

（終了 午後1時31分）

**議長（勝山 正）**

ここで暫時休憩とします。

再開は、午後1時40分をお願いします。

（休憩 午後1時31分）